

るのです。しかも有名になれば自律心が芽生える！それが会社なら、誇りと自信を持った社員はこぞって良い商品を造ろうとし、喜ばれるサービスを提供したくなる。顧客が増え業績も上がると、顧客や取引先も喜び、誇りを抱く。誰もがHero・Heroineに夢・憧れを抱くのと一緒…これが本質です。そこで、広報の努力を怠り軽視する幹部や社員は、次の3つのチャンスを逸しています。1. 説明責任を果たすチャンス。2. 業績向上のチャンス。3. 人に喜び・誇り・自信・社会的責任の自覚と自律心を与えるチャンス。

広報の重視は、義務・使命であり、その軽視は、怠慢・傲慢！広報の無視は、「或ることを為した為に不正であるのみならず、或ることを為さない為に不正である場合も少なくない」(アウレーリウス『自省録』) 不作為の罪！なのです。大金で“有名”を買っても、品質が劣り、社員の対応に配慮を欠けば、信用失墜、炎上で忽ち滑落する。言葉で飾り、化粧が過ぎると必ず暴かれます。正統には、社員の品性・製品の品質・会社の品格の「三つの品」が常に進化・高度化するのに比例して知名度が向上していくプロセス…が理想。つまり、知名度アップの何倍ものリスク増大を常に恐れ、「三つの品」向上の仕組みとその下落阻止・改善体制を構築すべきです。

真の広報活動とは、善い商品が記事に→有名に→社員に喜び・誇り→善い商品・サービス提供→顧客が喜び→業績拡大→より優れた商品提供…つまり、周りの皆に喜び誇りを与え、敬愛される企業にする長期的な経営活動を循環させることなのです。

従い「私の言動が(自社名)です」と言える「真人間」、つまり、自分が代表者だ！との自尊心・自尊心・自律心を持つ社員を育てるのです。小手先では長続きする道理はありません！実は“自分も何かの次へのメディア(媒体)”なのです。よりメディア価値を高めて引き継ぎましょう。

私の著作の動機は、「成形の功德」= 形を成せば光を放つ(森信三『修身教授録』)との一会です。ばらばらの写真をアルバムに成形すると末代迄楽しめる！祝典での正装や額に入った絵画も、古典やオペラも成形で功德を与える。良い部品を集め成形した車やパソコンが役立つように、著作とは、知識経験を言葉で繋ぎ文章化して形を成すこと！企業も社史にすると末永く遺る。従い私は誰にも本の出版を薦めます。同窓の士も是非自らの足跡を本に！

今も、2013年上梓『企業不祥事・危機対応広報完全マニュアル』の新版を執筆中で年始に再上梓予定。「日本ペンクラブ」会員でもあり一介の著述家とし

て異分野のテーマへの挑戦も余生の楽しみです。

安倍晋三首相の突然の辞任による菅義偉新体制においても、新常态におけるリモート時代が続く中、暫し立ち止まり自問自答、「果して自分は“Essential Worker”なのか？」と！九大生たる者は、三独= 独自独特独創の自分であり、三独の仕事をし、三独の人生を送る…「人間の幸福は自己の優れた能力を自由自在に発揮するにある」(アリストテレス)のです。自分が、自分の能力に恥じない・値する仕事を自分に命令し、断固遂行させましょう。

2019年発足「九大CEOクラブ」の末席にて若手支援に何か貢献も…母校の誇りを胸に、母校の名声高揚に何がしかの役立ちを自らに期待し、願っています。こうした独りよがりの人生故に、日頃愛吟する一句を…。「真砂なす数なき星の其の中に 吾に向ひて光る星あり」(子規)。

.....

「企業行動の経済学」 —グローバル化の現実と課題—



折尾愛真短期大学
前准教授(現非常勤講師)

市川 順一氏

1974(昭和49)年卒

私は、昭和49年3月に経営学科(川端ゼミ)を卒業し、現在のパナソニックに就職いたしました。35年間勤めた後、半年間の別会社勤務を経て、58歳から大学教員を11年間勤め上げました。大学教員も昨年で何回目かの定年を迎え、現在は非常勤で教鞭をとる傍ら、ビジネス系、異文化研究系の学会活動、北九州市の市民カレッジや小規模ではありますが、勉強会等に呼ばれての講演活動など行っております。まだまだ、「生涯現役」をモットーにいろんなことに首を突っ込んでいくつもりです。

本書を著したきっかけは、出版社である「中川書店」様から、強く勧められたことがスタートで、大学で経済学系の科目を担当する際に学生に対し、分かり易く説明できる取っ掛かりのテキストとして編纂しようとしたものです。

昨今、大学では、経済学系学部は、学生に人気のある分野だと言われて、現に日本中に多くの経済学系の学部・学科が存在します。人気の理由はなにかと探ってみれば、例えば、「就職が有利」、「入学後